

# Product Showcase

GoLive CyberStudio 1.0.1

Microsoft FrontPage 97

Symantec VisualPage 1.0

HOTALL 4.0

こざいく3.0

ホームページビルダー2.01

クラリスホームページ2.0

WebAssistant / Publisher 2.0

Adobe PageMill 2.0J



機能で選ぶから用途で選ぶへ

WWWの歴史はまだ浅いが、ホームページ作成ソフトの歴史はそれに輪をかけて浅い。なにしろこの手のソフトが誕生してから、まだ2年ほどしかたっていないのだ。正直に言って、初期のソフトにそれほど魅力は感じられなかった。ソフトのできが悪かったわけではない。すさまじい勢いで機能が拡張するWWWブラウザやHTMLに、ホームページ作成ソフトが追いつけなかったのだ。ところが、現在市販されているホームページ作成ソフトは、WWWブラウザを上回る速度でバージョンアップを重ね、初期のものとは比べものにならないほど、機能や操作性が上がっているのだ。

さらに、最近のホームページ作成ソフトは、ホームページを作るための単なるエディターではなくなった。できあがったページをサーバーにアップロードしたり、ウェブサイト全体を管理したりと、ホームページのための統合環境ツールと言ってもいいほど多機能になっている。

さて、それではこれらの高機能なソフトのなかからどれを選べばいいのか。これが問題だ。結論を言うと、「どんなページを作るのか」、「個人で作るのかグループで作るのか」といった用途に応じて選ぶべきだ。

用途に合わせて賢く選ぼう

## 【ホームページ作成ソフト百花繚乱】

Photo : Picatti Dandolini

「ホームページを作れるなんてスゴイ！」と感心する時代は終わった。インターネットの世界では1年前のでき事は大昔の話。ホームページ作成ソフトも例外ではない。現在、市販されているホームページ作成ソフトは、この1年間で機能が大幅に充実し、かつ操作性も向上した。「誰にでもホームページが作れます」のキャッチフレーズにウソはない。 藪暁彦

そこで、ここでは、それぞれのソフトが持つ優れた機能や価格とともに、それがどんな用途に向いているのかという点もあわせて見ていくことにしよう。ホームページ作成ソフトは「機能で選ぶ」から「用途で選ぶ」へと変わりつつあるのだ。



マークの付いているソフトは本誌付録のCD-ROMに体験版を収録



## ここまで進化した最新ソフト

登場したばかりの頃、ホームページ作成ソフトは、「HTMLエディター」と呼ばれていた。個々のページに、自動的にHTMLのタグを入れてくれるだけだったからだ。それがホームページ作成ソフトと呼ばれるようになったのには、それなりのワケがある。ホームページ作成の流れを追いながら、その理由を説明しよう。

### 1 ホームページの企画と素材作り

ホームページ作成は、企画立案から始まる。アイデアが固まったら、文章や写真、イラスト、場合によってはJava アプレットやビデオ、サウンドなど素材の準備だ。さすがにすべての素材を作れるソフトはないが、「ホームページ・ビルダー」や「フロントページ」などアニメーションGIF編集ソフトが付属す

るもの、「HOTALL」のように文字を3Dグラフィックスに変換する機能を持つものもある。テンプレート付きのソフトも増えてきた。ページをうまく構成できないときは、そのテンプレートを利用するといふも、「フロントページ」にいたっては、ウェブサイト全体のテンプレートまで付いている。

### 2 ページ編集

当初のHTMLエディターにできたのは、ページ編集だけだった。では、最近のホームページ作成ソフトが、これに付加機能を加えただけのものかというところではない。操作性が格段に上がっている。いまや画像の挿入から

リンクの設定まで、ドラッグ&ドロップでできるソフトも珍しくない。「Adobe PageMill 1.0」は、編集画面でWWWブラウザの表示イメージがそのまま見られるというので話題になったが、今ではそれが当たり前。

### 3 ページデザインと演出

たくさんの人に繰り返しアクセスしてもらうには、それなりの工夫が必要だ。工夫その1はページデザイン。現在、主流のHTMLに大したレイアウト機能はない。そこで考えられたのが、表を使った簡易レイアウト。表のマス目にテキストや画像を挿入し、枠線を消すのだ。そうすれば、2段組み、3段組みのページも作成できる。また、フレー

ムを使えば、印刷物には真似できないページを作ることができる。工夫その2は、Javaスクリプトやプラグインを使ったページの演出だ。興味を引くには、動いたり音の出るページを作るのが一番。ただし、凝りすぎるとロードに時間がかかり、反対に嫌われる原因になるので注意。

### 4 ウェブサイトのチェック

ページの編集が終わったら、次はファイルの確認とリンクのチェックだ。ウェブサイトは、複数のページで構成されている。個人ページでも、画像まで含めるとファイル数は相当な

数になるはず。それを、手作業でチェックするのは大変だ。そんな手間のかかる作業を自動的にやってくれるソフトも珍しくない。

### 5 ファイルのアップロード

ホームページ作成の最後の仕事は、サーバーへのファイルのアップロードだ。ファイル転送はもともとFTPソフトの仕事だったが、ホームページ作成ソフトの中には、この機能まで備えたものも少なくない。なかには、サーバー側とローカル側のファイルを照合し、修正されたファイルだけをアップロードしてく

れるソフトもある。ホームページ作成ソフトのすべてが、全行程を処理できる機能を備えているわけではないが、ページ編集の領域を超えて、WWWで情報発信するための統合ソフト的な方向へ向かっていることは確かだ。昨年後半以降に発売されたソフトに、それが顕著に表れている。

最新ソフトを使った  
ホームページ作成の流れ





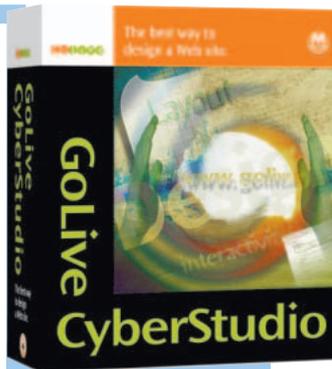
# ドローソフト感覚でページ編集



## GoLive CyberStudio 1.0.1



発売元	: 株式会社ソフトウェア・トゥー
価格	: 64,800円
発売予定日	: 英語版: 4月(日本語版への無償アップデート付き) 日本語版: 6月
問い合わせ先	: 03-5676-2177
ホームページ	: <a href="http://www.swtoo.com/">http://www.swtoo.com/</a>
動作環境	: パワーPC/MacOS 7.5.5以降



### ページレイアウト自由自在

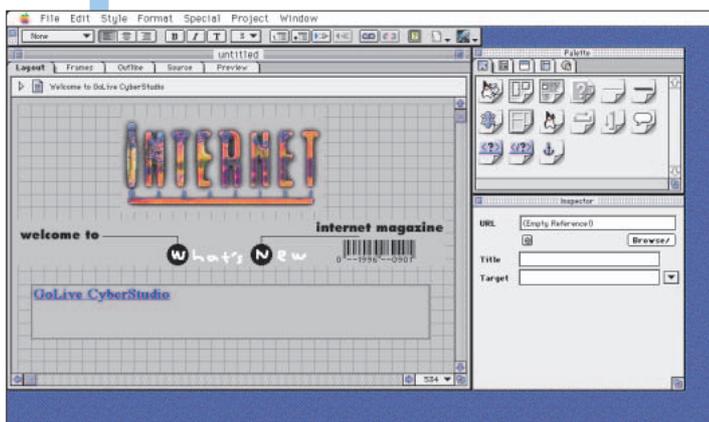
「GoLive CyberStudio」は、HTMLエディターと呼ぶよりもホームページオーサリングツールと呼ぶほうがふさわしい。まさに、目からウロコのホームページ作成ソフトだ。何よりも驚くのは、ページのどんな場所にも文字や画像を自由自在にレイアウトができること。と言ってもスタイルシートを使っているわけではない。だからCyberStudioで作ったページは、最新のWWWブラウザでなくても再現できるのだ。自在なレイアウトの仕掛けは、表(テーブル)だ。テーブルタグをウラ技的に使い、簡単なレイアウト処理を施しているページはいくらもある。CyberStudioでもこの方法を用いているが、こちらは表の使い

方が徹底している。セルの幅や高さをピクセル単位で調節して、テキストや画像などをレイアウトするのだ。さらに、その操作は実に簡単で、テキストボックスや画像などのオブジェクトをウィンドウにドラッグするだけ。同じような操作で、JavaアプレットやJavaスクリプト、プラグイン対応ファイルも配置できる。これら一連の操作は、ドローソフトやDTPソフトでコンテンツをレイアウトするのとほとんど変わらない。フレームの設定も簡単だ。あらかじめツールパレットに用意されているテンプレートの中から適当なものを選び、必要に応じてさらに枠組みを分割したり、不要なフレームを削除したりして、思いどおりの形にしていけばよい。

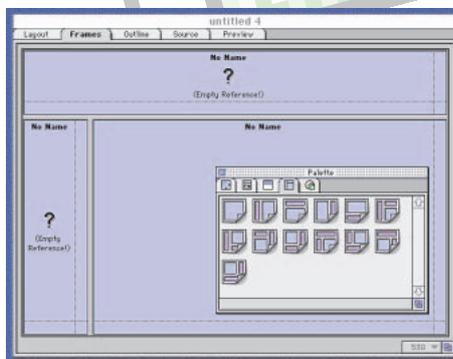
### ウェブサイトを編集、管理するプロジェクト

CyberStudioでは、ウェブサイトを構成するファイルをひとまとめにして「プロジェクト」という単位で管理できる。プロジェクトを作成しておけば、各ファイルがいつ作成され、いつ修正されたかが分かるだけでなく、ファイルのリンク状態をグラフィカルにチェックできるようになる。

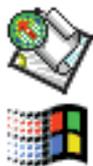
CyberStudioにはFTP機能はないが、とりあえずこのことに不満はあまり感じない。それほどページ編集機能が充実し、操作性がいいのだ。あえて問題点をあげるなら、テーブルタグを駆使してページを作成するために、HTMLソースファイルがたらに長くなることだろう。



編集ウィンドウに、ツールパレットから「レイアウトグリッド」をドラッグ。その上に、同じくツールパレットから選んだテキストボックスや画像、表、Javaアプレットなどのオブジェクトを配置する。各オブジェクトのサイズも変更可能。文字の色やリンクの設定もドラッグでできる。



フレームを設定するときは、ウィンドウ上部の「フレーム」タブをクリック。次にツールパレットの「Frame」タブをクリックして、テンプレートの中から適当なものを選ぶ。さらに各フレームを分割することもできる。ただしCyberStudioではフレームをプレビューできないので、最終的な確認はWWWブラウザで行う。



# Microsoft FrontPage 97

発売元 : マイクロソフト株式会社

価格 : オープンプライス ( 推定小売価格 : 24,800円 )

問い合わせ先 : 03-5454-2300

ホームページ : <http://www.microsoft.co.jp/office/frontpage/>

動作環境 : ウィンドウズ 95、NT

サイト構築を前提にページを作成

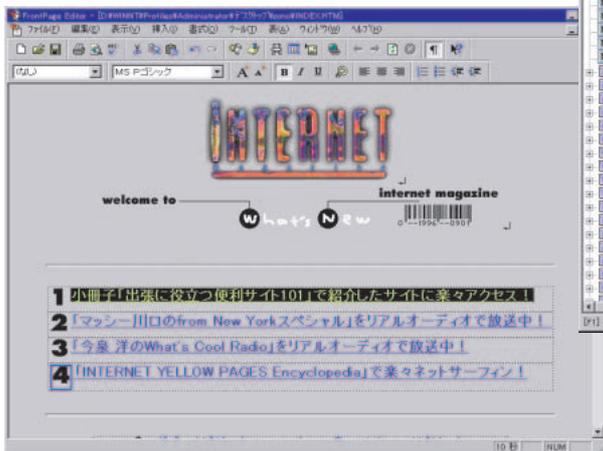
フロントページは、フロントページエディター、フロントページエクスプローラの2つのプログラムで構成されている。フロントページエディターで個々のページを作成し、それをフロントページエクスプローラでウェブサイトとしてまとめるのだ。フロントページで作るウェブサイトをフロントページウェブと呼び、ウェブ全体の構造を決めてから、各ページを作成していくところが、このソフトの大きな特徴だ。まだ作成が完了していないページの制作進行を管理する機能まで備えられている。最近では、FTP機能付きのホームページ作成ソフトも珍しくない。フロントページも同様の機能を持ってい

るが、単にファイルのアップロード、ダウンロードにとどまらず、フロントページウェブの編集、データの更新や情報の発行が効率よくできるようになっている。ただしこれには、サーバー側にフロントページエクステンションという拡張プログラムが必要だ。もっともプロバイダーのWWWサーバーを利用している場合は、このプログラムを利用できない。そんなときは、パソコンにオプションのパーソナルウェブサーバーをインストールするといふ。パーソナルウェブサーバーは個人用サーバーとしても利用できるが、どちらかといえばサーバー環境のシミュレーション用。作成したフロントページウェブの動作確認に使う。OKならば、オプションのウェブ発行ウィザードでファイルをアップロード。ウェブ発行ウィザードを使えば、この作業も簡単だ。

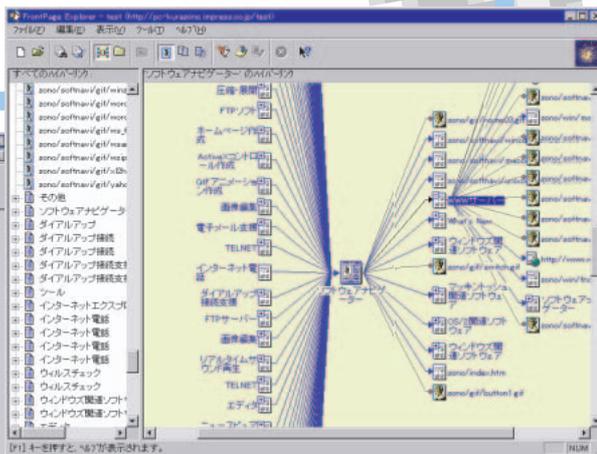
ウィザードを使ったお手軽編集

フロントページウェブ自体もウィザードでデザインできる。「カスタマーサポート」や「会社案内」など、用意されているテンプレートを選び質問に答えていけばフロントページウェブの原形ができあがる。ウィザードといえば、フレームの設定もウィザードでできる。用意されているテンプレートを使って、必要なレイアウトに変更していくのだ。そのほかスタイルシートを除けば、フロントページエディターは、インターネットエクスプローラ3.0が表現できるコンテンツをすべて作成できる。ActiveXコントロールはもちろん、プラグインやJavaアプレットなど、どんなオブジェクトでもページの中に埋め込める。

ページ編集からサイト管理まで



画像挿入やリンクの設定など大半の操作は、設定範囲を指定し、ツールバーのボタンをクリックして、表示されたダイアログに必要な事項を入力するだけでいい。表も簡単だ。ツールバーの「表の挿入」ボタンをクリックすると、プルダウンメニューのように表のひな型が表示される。これをドラッグして、必要なサイズになったところでボタンを離せば、指定した場所に表が作られる。



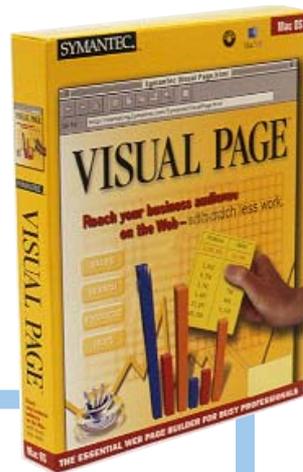
フロントページエクスプローラは、フロントページウェブに含まれるフォルダーやファイルをエクスプローラのように表示してくれる。ツールの「ハイパーリンクビュー」ボタンをクリックすれば、指定したファイルのリンクの様子がグラフィック表示される。リンクの様子をツリー表示してくれるソフトはほかにもあるが、ホームページ中のリンクは単純なツリー表示では表せないことが多い。フロントページエクスプローラなら、リンク状態を正確にチェックできる。



# Symantec VisualPage



発売元	: 株式会社 シマンテック
価格	: 25,000円(日本語版予価)
発売予定日	: 5月下旬
問い合わせ先	: 03-3498-1118
ホームページ	: <a href="http://www.symantec.co.jp/">http://www.symantec.co.jp/</a>
動作環境	: パワーPC、68k/MacOS 7.1以降



シンプルでわかりやすいインターフェース

VisualPageには、CyberStudioやフロントページと違って、「他に類を見ないきわめてユニークな機能」は特になし。とにかくシンプルな操作で、素早くページの編集作業を進められる。それが一番の特徴だ。テキストや画像、Java アプレット、プラグインといったページを構成する素材は、ツールバーのボタンをクリックして、表示されたダイアログボックスから選ぶだけ。挿入した素材をダブルクリックすれば、それぞれの設定ダイアログが開くから、そこで必要な設定をすればいい。手作業だと面倒な表も、これと同じ要領で作ることができる。

「Window」メニューから「Site Window」を選び、ウェブサイトを構成するファイル類を保存したフォルダを表示しておく、作業はさらに楽になる。ここから画像ファイルを編集ウィンドウにドラッグ&ドロップするだけで、その画像をページに貼り付けることができるのだ。同じ要領でリンクの設定もできる。VisualPageのユーザーインターフェイスは見た目にはシンプルだが、操作も単純明快。これが、このソフトの最大のメリットだ。

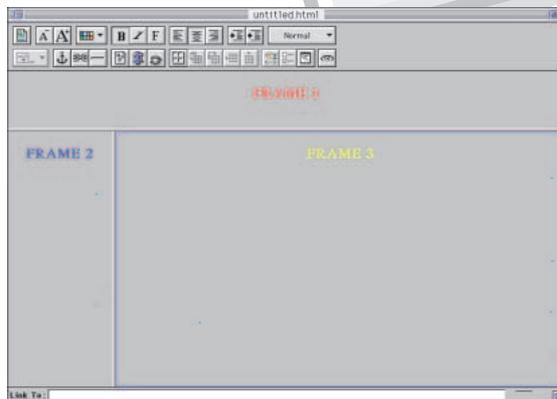
プレビューにWWWブラウザ不要

近頃のHTMLエディターはWYSIWYGが当たり前だが、最終的な確認にWWWブラウザが必

要なものも多い。しかし、VisualPageなら、編集からプレビューまで、ページ作成の全行程をこの1本で進められる。編集モードからプレビューモードに変えればJavaアプレットも実行できるし、QuickTimeムービーなどのプラグインも再生できる。もっとも、どんなプラグインもOKというわけではないようだ。完成したファイルのアップロードもできる。「File」メニューから「Open FTP Site」を選べば、前もって設定してあるFTPサーバーの自分のディレクトリーにアクセス。ファイルを更新したり、新しいフォルダを作ったりすることができる。VisualPageは処理速度も速いし、使っていて気持ちがいいソフトなのだ。



テキストの設定から画像やJavaアプレットの挿入、表作成にいたるまで、同じ手順で作業ができる。表を作る場合は、表挿入ボタンをクリック。設定ダイアログが表示されたら、行や列の数などを決めてOKボタンをクリック。これで表の枠組みができあがる。また、Site Windowを開いておけば、リンクの設定や画像挿入がドラッグ&ドロップでできる。



フレームの設定は、「File」メニューから「New Frame Layout」を選択。これで、編集エリアが縦に2つに区切られたウィンドウが新しく開く。「Frame」メニューから「Split Frame Vertically」、「Split Frame Horizontally」を選んで、さらに縦横にフレームを分割する。また、各フレームで表示するファイルは、「Set Frame Source」で設定する。



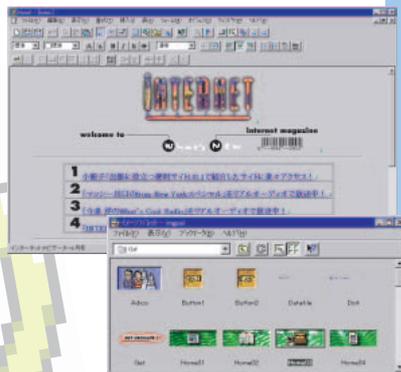
# HOTALL 4.0



発売元 : デービーソフト株式会社  
 価格 : 17,800円  
 問い合わせ先 : 011-807-6700  
 ホームページ : <http://www.db-soft.co.jp/>  
 CD-ROM収録先 : WIN HOTALL  
 動作環境 : ウィンドウズ 95

正直な話、HOTALL (ホタル) の最初のバージョンにはあまり感心しなかった。操作性が良くなかったからだ。ところが、それから1年数か月たって発売されたバージョン4.0は、ずいぶん操作性が良くなった。ただ、ツールバーにとこせましと並んだボタンの中に、ちょっと見ただけでは何をやるものかわかりづらいものがあるのが少し気にはなる。設定範囲を選択し、ツールバーのボタンをクリック。必要ならダイアログを表示して、詳細な条件を設定する。これが、操作の基本だ。また、

「イメージパレット」を起動すると、画像ファイルのイメージが表示される。ここからドラッグするだけで、画像をページに挿入できるのだ。このほかフォントや色、背景に貼るテキストを指定すると、テキストを3Dグラフィックに換えてくれる「3Dサインボード」、ページを構成するHTMLファイルのリンクなどを確認できる「リンクブラウザ」、FTPソフトの「dBFTP」と、付加機能が充実しているのがHOTALLの特徴といえるだろう。



イメージパレットを開いておけば、ドラッグ&ドロップで画像を挿入できる。CSV形式に変換した表計算ソフトのデータを読み込めば、手間をかけずに表を作れるのは便利でいい。

## 付加機能が充実の新バージョン

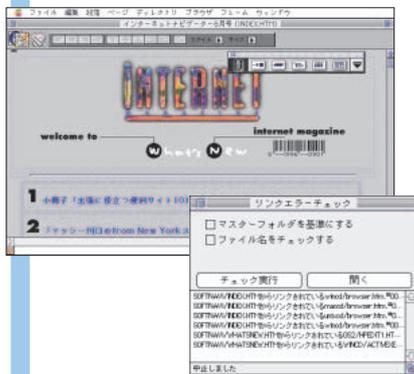


# こざいく 3.0



発売元 : 株式会社ビジョン・コーポレーション  
 希望小売価格 : 198,000円  
 問い合わせ先 : 03-3258-0460 (ダットジャパン株式会社)  
 ホームページ : <http://www.visionj.co.jp/cosaicj/>  
 CD-ROM収録先 : MAC COSAIK  
 動作環境 : パワーPC、68k

## ファイルを開くとまずエラーチェック



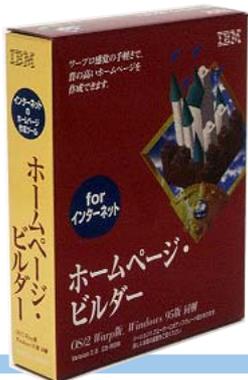
通常のページは、ページウィンドウをエディタモードにして編集するが、フレーム設定は専用のフレームウィンドウで行う。フレームメニューから新規フレームを選択すると、フレームウィンドウが開く。ここでウィンドウ内を縦方向、横方向に数回分割して、必要なフレームを設定する。

こざいくは、「エディタモード」でページを編集し、「ブラウザ」モードで編集結果を確認する。このブラウザがしっかりWWWブラウザとしての機能を備えていて、起動時に開くページの設定までできる。ツールバーには、テキストの属性を決めるボタンしかない。それ以外は、カテゴリ別に分類されたツールパレットのボタンをクリックして操作する。ていねいに作られていることがよくわかるソフトだが、気になるところもある。こざいくでは、ページが「ブロック」と呼ばれる単位で構成

されている。ブロックの中にテキストや画像を挿入し、複数のブロックを積み重ねてページを作るのだ。このブロックの中でマウスボタンをクリックすると、画面がちらつく。FTP機能を備えているのはいいが、すべてのファイルを閉じてからでないといこの機能が使えない。そして何より気になるのが、日本語をインライン入力できないこと。これはつらい。前バージョン以来のリンク設定のしやすさ、リンクチェックのきめ細かさ、フレームへの対応など、評価できる機能も多だけに残念だ。



# 初心者に親切な画面デザインとマニュアル



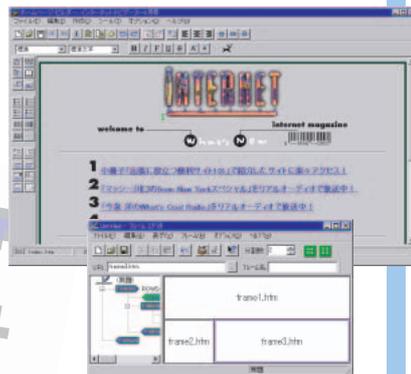
## ホームページ・ビルダー 2.0



発売元 : 日本IBM  
 価格 : 14,800円  
 問い合わせ先 : 0120-04-1992 (ダイヤルIBM)  
 ホームページ : <http://www.ibm.co.jp/software/internet/hpb/>  
 CD-ROM収録先 : WIN HPBUILD  
 動作環境 : ウィンドウズ 95、NT3.51

ホームページ・ビルダーのツールバーは、ウィンドウ上部と左側に分かれています。このおかげで、ボタンをクリックするだけでほとんどの操作を実行でき、なおかつ編集エリアを広く取ることができる。これは、他のソフトにはない工夫だ。「HTMLを知らなくてもホームページが作れる」。多くのソフトのうたい文句だが、はたしてそうだろうか。いくらボタンをクリックするだけと言われても、初めての人にとってはやはり説明が必要だ。ホームページ・ビルダーのマニュアルにはチュートリアルが付いていて、書いてある

とおりに操作すればサンプルページを作れるようになっている。特に初心者にとって、これはありがたい。著作権フリーのJava アプレットも付いているし、完全に対応しては無いがプラグインも挿入できる。別プログラムを起動しなければならぬが、フレーム設定やGIFアニメーションの編集、サーバーへのファイルのアップロードもできる。さまざまなタイプのホームページを作れる機能をひととおりそろえた、ユーザーフレンドリーなソフトだ。



フレームを設定したり、完成させたファイルをサーバーにアップロードしたりするときは、あらかじめスタートメニューからプログラムを選ばなければならない。ツールバーにボタンを付けておいてほしかった。

Product Showcase

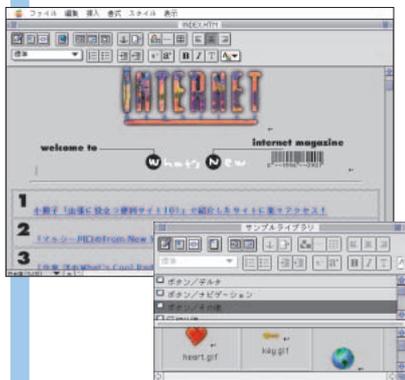
# 3つのモードでページ編集、修正、確認



## クラリスホームページ 2.0



発売元 : クラリス株式会社  
 価格 : 9,900円 (キャンペーン価格)  
 問い合わせ先 : 03-5210-9022 (FAX)  
 ホームページ : <http://www.claris.co.jp/>  
 CD-ROM収録先 : MAC ClarisHomepage  
 動作環境 : パワーPC、68k



表計算ソフトで作成したデータをクラリスホームページにコピー＆ペーストするか、あるいはワープロソフトで作成したタブ区切りのデータをドラッグ＆ドロップすると、自動的に表が作成される。これは便利だ。

クラリスホームページには、「編集モード」、「プレビューモード」と「HTMLモード」の3つのモードがある。編集モードでページを編集し、それをプレビューモードで確認、未対応のタグを使う場合にはHTMLで修正が加えられるようになっている。編集モードで編集できる機能は、他のソフトとほとんど変わらない。Java アプレットやプラグイン対応ファイルを挿入することもできる。ただし、こうした埋め込みオブジェクトはプレビューモードでは確認できないので、WWW ブラウザーであ

らためて動作チェックが必要だ。便利なのがサイト管理機能だ。サイト定義ファイルを作っておくと、作成したページ数と全体の容量を確認でき、画像ファイルを指定したフォルダーに集めてくれる。ページ中に貼り付ける画像ファイルをいろいろなフォルダーから持ってきている場合、この機能はありがたい。そして必要なファイルを1か所に集めたら、サイトウィンドウの「アップロード」ボタンをクリック。設定したサーバーにフォルダー内のファイルをアップロードしてくれる。



# 基本的な操作をすべてボタン化



## WebAssistant/Publisher



発売元 : 株式会社東芝

価格 : EasyAuthor : 16,800円、Publisher : 36,800円

問い合わせ先 : 03-3457-3300

ホームページ : <http://www.toshiba.co.jp/>

CD-ROM収録先 : WIN Webassis

動作環境 : ウィンドウズ 95、NT

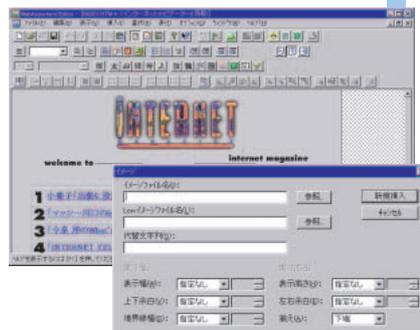


Editorを初めて起動したとき、ツールバーに並んだボタンの多さに驚かされた。ボタンはHTMLのタグをアイコン化したものだが、おそらくスタイルシート用のタグやOBJECTタグ以外は、ほとんど網羅されているのではないと思う。しかし、このままではあまりに作業がやりにくい。ツールバーはカテゴリー別に7つのブロックに分かれていて、ドラッグして並べ替えたり、ツールバーエリアの外に出したりすることもできるが、**限度がある。**

ボタンの多さに比例するかのよう

編集機能は豊富だ。Java アプレットやプラグインのオプションパラメーターは必要なだけ設定できるし、スクリプトを記述するエディターも付いている。フレームの設定法もユニークだ。「フレームの表示/編集」ボタンをクリックすると、フレームモードに切り替わる。ここでウィンドウの左下または右上にある「分割ボックス」をドラッグすれば、自由にフレームを設定できるのだ。

なお、「EasyAuthor」にはファイル転送機能は付いていない。



ツールバーには小さなディスプレイでは編集エリアがほとんど取れないくらいたくさんのボタンが並んでいる。画像やプラグインなど、別ファイルを読み込む必要があるものは、ボタンをクリックするとオープンダイアログが開く。それ以外は、設定範囲を選択してボタンをクリックすればいい。



## Adobe PageMill 2.0



発売元 : アドビシステムズ株式会社

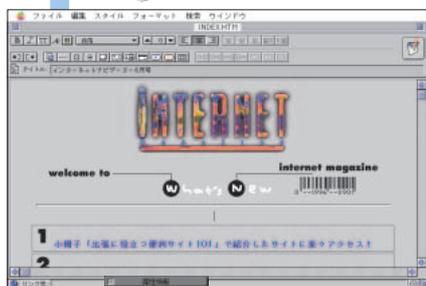
価格 : 17,800円

問い合わせ先 : 03-5423-1860

ホームページ : <http://www.adobe.co.jp/product/pagemill/pagemill.html>

CD-ROM収録先 : MAC PageMill

動作環境 : パワーPC、68k



ペーストボードとカラーパレット、属性パレットをウィンドウのそばに表示しておく、操作性はかなり良くなる。例えば、テキストのある範囲を選択し、カラーパレットの色をそこまでドラッグするだけで表示色を変更できる。

これでいったい何ができるのだろうかと不安になるほど、PageMillのユーザーインターフェイスはシンプルだが、これで十分。ページの中にJava アプレットやプラグインを埋め込むこともできるし、フレームにも対応。ボタンのない機能は、ショートカットキーに割り当てられている。他のソフトとの違いは随所に見られる。例えばテキストと画像以外のものは、Java アプレットでもプラグインでも、ツールバーの「オブジェクト配置」ボタンで挿入。詳細なオプション

パラメーターは、属性パレットで設定する。フレームは編集モードとは別の専用モードで設定するソフトが多いなか、PageMillは通常の編集モードで設定できるのも楽でいい。しかもOptionキーを押しながらドラッグするだけで、思いどおりに分割できる。「ペーストボード」も、便利な機能だ。ペーストボードには画像やテキストだけでなく、プラグインやJava アプレットまでコピーできる。しかもテキストにリンクが設定されている場合には、リンクまでコピーできるのだ。

# 老舗ソフトの特徴はシンプルさ



# 最新ホームページ作成ソフト機能比較

Product Showcase

	GoLive CyberStudio 1.0	Microsoft FrontPage 97	Symantec VisualPage 1.0	HOTALL 4.0
ページ編集	編集モード			
	プレビューモード		×	×
	HTMLモード			
	ページ作成テンプレート	×		×
	表作成の操作性			
	表の自動生成	×	×	×
	フレーム作成の操作性			
	フレームプレビュー	×	×	×
	クライアントサイドイメージマップ			
	サーバーサイドイメージマップ	×		×
	Javaアプレット埋め込み			
	Javaアプレットプレビュー	×	×	×
	プラグイン埋め込み			
	プラグインプレビュー		×	×
	ActiveXコントロール埋め込み	×		×
ActiveXコントロールプレビュー	×	×	×	
ホームページ自動生成	×	×	×	
サイト管理	リンクチェック(クライアント側)		×	
	リンクチェック(サーバー側)	×		×
	FTPアップロード機能			
	更新されたページだけアップロード	×	×	×
	ページ表示時間を計算	×	×	×
画像編集	画像の自動変換	PICT GIF	BMP,EPSなど GIF,JPG	PICT GIF BMP GIF
	画像編集ツール	×	ImageComposer	×
価格	64,800円	24,800円	25,000円(予価)	17,800円
プラットフォーム	MAC	WIN	MAC	WIN

## ソフトによって異なる操作性

今回、9本のホームページ作成ソフトをチェックした。結果から言ってしまうと、基本的なページ編集機能に関する限り、ほとんどのソフトに違いはない。ただしCyberStudioだけは別格で、独自の工夫でページを自由にレイアウトすることができる。

ソフトによって差があるのは操作性だ。文字のスタイルやサイズ、見出しなど、テキスト関連の操作に大差はないが、画像、プラグインなどの処理、リンクや表、テーブルの設定は、ソフトによってずいぶん操作勝手が違う。今回、サイト内のファイルへのリンクをもっとも設定しやすかったのは、CyberStudioとPageMillだ。リンクボタンをクリックするとリンク先のファイルを選ぶダイアログを開く方式が多いが、この2つのソフトはドラッグ&ドロップで設定できる。特にドラッグ&ドロップが徹底しているのはPageMillで、表のサイズまでドラッグ&ドロップで決められる。

フレーム設定にはどのソフトも独自の工夫

をしているが、編集画面で設定後のイメージを確認できるほうが作業を進めやすい。今回使ったなかでこれができるのは、VisualPageとPageMillの2本だけだ。プレビューといえは、Javaアプレットやプラグインも動作確認しながら編集できるに越したことはない。今回取り上げたソフトのなかでは、VisualPageが編集画面でJavaアプレットを実行でき、CyberStudioとPageMillの2本がプラグインを再生できる。ただしどちらも、指定されたフォルダーにプラグインソフトをインストールしておかなければならない。

個々の機能についてはそれぞれ操作性の善し悪しに差があるが、全般的に一番使い勝手が良かったのはVisualPageだ。編集画面だけですべてのことができ、なおかつ処理速度が速いから、作業をスムーズに進められる。

## プラスの付加機能

ソフトによってまるで違うのが、ページ編集以外の機能だ。サーバーとファイルを取り取りするFTP機能は、いまや付いていて当

り前。WebAssistantにはEasyAuthorとPublisherの2種類のパッケージがあり、PublisherがFTP機能を含めたサイト管理機能を備えている。今回紹介した中でこうした機能がないのは、PageMillだけだが、Adobe社からはこれにサイト管理機能を加えたSiteMillが発売されている。

作成したファイルのリンクチェック機能を持つソフトも増えている。今回取り上げた中では、CyberStudioとウィンドウズ版のすべてとマック版ではございくがリンクをチェックしてくれる。さらに、アクセスしたとき画像ファイルも含めてどのくらいのロード時間がかかるかを計算してくれるソフトもある。

## ホームページ作成ソフトはこう選ぶ

ございくを除けば、どのソフトにも比較的購入しやすい価格が設定されている。だからいっそうどれを選べばいいのか迷うところだが、前にあげた操作性や付加機能とホームページ作成の目的を照らし合わせれば、自然と選択範囲は絞られてくる。最後に、タイプ別





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)